家庭、技術・家庭

【小　学　校】

家庭科は、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住等に関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目標としている。

この目標を実現するためには、児童が自ら直接的な体験を通して、調理や製作等の手順の根拠について考えたり、家庭生活を支える仕事を実践する喜びや、自分が作品を完成させることができたという達成感を味わうことができたりする授業を展開していくことが大切である。

1　家庭科の指導の重点

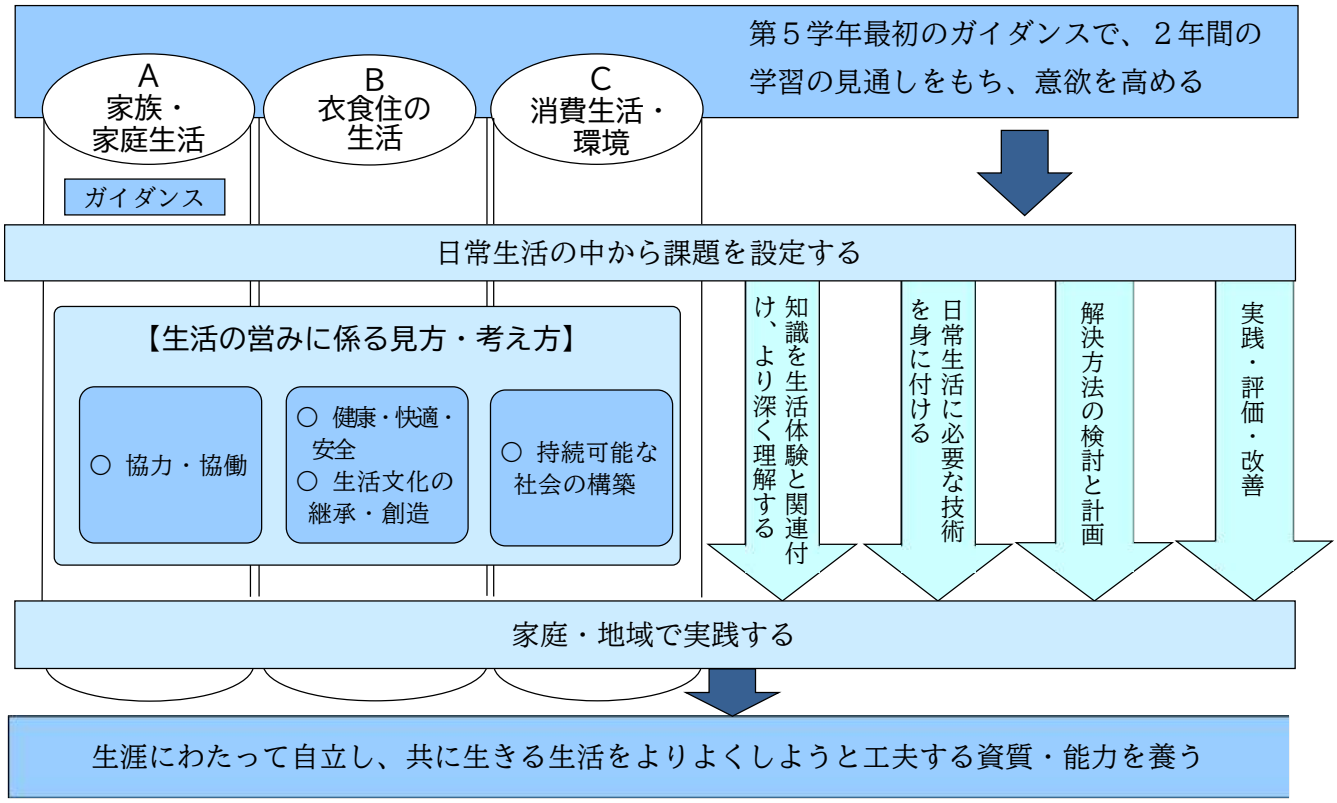
(1)　日常生活に必要なことを理解し、それに係る技能を身に付けられる学習活動を展開しよう

ア　生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を生活体験等と関連付けてより深く理解し、自分の成長を自覚するとともに、家庭生活への関心を高め、その営みの大切さに気付くようにする。

イ　多様な直接体験等による具体的な学習を展開し、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用できるようにする。

(2)　日常生活の中から問題を見いだして、解決していく力を育てよう

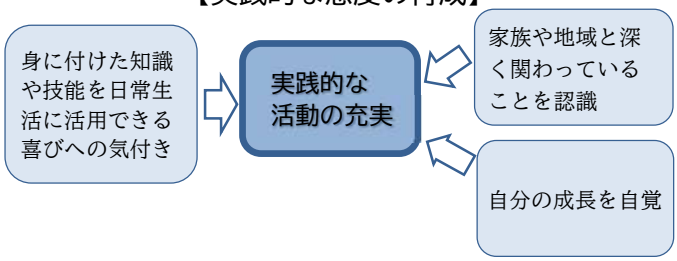
食育の推進や持続可能な社会の構築といった社会の要請に対応して、主体的に生活をよりよくしようと工夫する能力や実践的な態度を培うことが必要である。そのために、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、新たな情報を収集しながら、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養うことが大切である。



(3)　家庭や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てよう

学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定し、自分の生活が家庭や地域と深く関わっていることを認識したり、自分の成長を自覚して実践する喜びに気付いたりすることができる活動等を充実させることが大切である。なお、家庭生活が個々の家庭によって異なることから、児童を取り巻く家庭環境に十分配慮して学習を進めるようにする。

【実践的な態度の育成】



2　主体的・対話的で深い学びを引き出す家庭科の学習指導

(1)　日常生活の中から問題を見いだし、課題を設定しよう

既習の知識及び技術や生活体験をもとに生活を見つめ、生活の中から問題を見いだし、解決するべき課題を設定する。

(2)　解決方法を検討し、計画を立てよう

ア　生活に関わる知識及び技能の習得に粘り強く取り組めるようにする。そのためには、学習の目的を明確にして、児童が学ぶ意義を自覚し、主体的に取り組めるようにする。

イ　児童同士で協働したり、異なる意見を共有したりして考えを深め、家族や身近な人々との会話を通して考えを明確にしながら解決方法を検討し、計画を立てる。

(3)　課題解決に向けた実践活動をしよう

生活に関わる知識及び技能を活用し、調理・製作等の実習や、調査、交流活動等を行う。

(4)　実践活動の評価・改善をしよう

実践を振り返って新たな課題を見付け、改善策を検討する。

(5)　家庭・地域で実践してみよう

自分の生活が家庭や地域と深く関わっていることを認識したり、自分の成長を自覚して実践する喜びに気付いたりすることができる活動を充実させる。

(6)　評価を次の学習活動につなげよう

ア　一人一人のものの見方や考え方、取組のよさを共感的な態度で評価し、児童の主体的な学習を支援する。また、児童の学習活動を適切に評価し、指導と評価の一体化を図る。

イ　「学びに向かう力・人間性等」は、「してもらう自分」から「できる自分」へと成長しているかどうかを見るため、長い区切りの中で変容を評価する。「思考力、判断力、表現力等」は、課題の解決を目指して自分なりに工夫する過程を含めて評価する。

個別最適な学びを実現するための授業例（小５　手ぬいを生かして、生活で役立つ小物を作ろう！）

子供たちが小物づくりの単元に見通しをもち、生き生きと学習に取り組めるように、最初に①単元の学習計画を示しました。その際、ゴールとなる「作りたい小物」は一人一人に考えさせました。すると、「やってみたい」「どうすれば上手くできるかな」といった声が上がりました。

製作に向けて技能を身に付ける場面では、子供たちに「なみぬい」などの方法を見せ、ポイントを伝えた後、②「動画で確認」「教科書で確認」「友達からのアドバイス」といった練習の方法を紹介しました。練習場面では、１人１台端末を使い、何度も動画を視聴したり、動画を止めて確認したりすることで縫い方を理解しようとする子供の姿や、教科書で縫い方を確認しながら練習をする子供の姿、ポイントを意識して縫うことができたか友達に確認してもらう子供の姿が見られました。子供たち一人一人が、自分の理解度や技能に合わせて学び方を選択しながら、積極的に取り組んでいる様子がとても印象的でした。

ここがポイント！

①単元のゴールと学習計画を、はじめに明確にしておくことは、子供たちが自分のペースで調整して、学習を進めていくことにつながります。

②学習方法を複数示すことで、子供たちは自分の理解度や技能に応じた学び方を選択し、学習を進めることができます。

【中　学　校】

技術・家庭科は、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目標としている。

この目標を実現するためには、生徒自らが生活や技術に関心をもてるような、実践的・体験的な活動を組み立て、家庭や地域社会との連携を重視した題材を設定することが大切である。また、学習内容と将来の職業の選択や生き方との関わりの理解に触れるなど、生徒の実態に応じた内容や活動を準備することも重要である。

1　技術・家庭科の指導の重点

(1)　自立して主体的な生活を営むために必要な知識と技能を身に付けられる学習活動を展開しよう

技術分野	家庭分野
ア　身近な生活や産業等も含めた社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換、情報の技術の仕組みと関係する科学的な原理・法則の基礎を理解できるようにする。 イ　技術を安全・適切に活用する技能を身に付け、技術と生活や社会、環境は相互に影響していることを理解できるようにする。	ア　子供を育てる機能、心の安らぎを得るなどの精神的な機能、衣食住等の生活を営む機能、収入を得るなどの経済的な機能、生活文化を継承する機能等について理解を深められるようにする。 イ　習得した知識と技能を既存の知識や生活経験、他の技能と関連付け、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できるようにする。

(2)　生活や社会の中から問題を見いだして、解決していく力を育てよう

技術分野	家庭分野
ア　身近な生活や産業等も含めた社会の中から技術に関わる問題を見いだし、課題を設定して解決策を構想できるようにする。 イ　製作図や回路図、計画表等に表現して試行錯誤しながら課題の解決策を具体化し、実践を評価・改善することのできる力を身に付けられるようにする。	ア　既習の知識及び技能や生活経験をもとに家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだし、課題を設定して解決策を構想できるようにする。 イ　調理や製作等の実習や、調査、交流活動等を通して課題の解決策を振り返り、考察したことを発表し合い、他者からの意見を踏まえて改善することのできる力を身に付けられるようにする。

(3)　よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、将来にわたり生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育てよう

技術分野	家庭分野
ア　環境への負荷や安全性等の多様な側面から、作る場面、使う場面、廃棄する場面、万が一のトラブルの場面等と関連付けた学習展開を工夫する。 イ　使い手だけでなく作り手の立場も意識し、よりよい生活と持続可能な社会を構築するために技術を工夫し創造しようとする態度を育てる。	ア　家族の互いの立場や役割が分かり、自分の生活を支える家庭生活が地域との相互の関わりで成り立っていることが理解できるようにする。 イ　家族と協力し、地域に住む様々な世代の人々と共に力を合わせ、主体的に物事に取り組み、生活をよりよくするために実践しようとする態度を育てる。

2　主体的・対話的で深い学びを引き出す技術・家庭科の学習指導

(1)　学ぶことに興味や関心がもてる課題を設定しよう

ア　学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定する。

イ　自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを認識できる活動や、自分が社会に参画し貢献できる存在であることに気付くことができる活動を取り入れる。

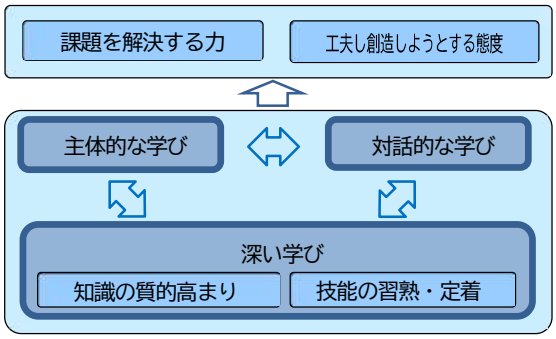
(2)　協働、対話を通して、自己の考えを広げ深める活動を取り入れよう

他者と協働したり、対話したりする中で、自らの考えを明確にしたり、広げ深めたりする活動を取り入れる。技術分野では、直接、他者との協働を伴わなくても、既製品の分解等の活動を通してその技術の開発者が設計に込めた意図を読み取るなどの、対話的な学びを行うことで、自己の考えを広げ深める。

(3)　問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えをもとに生活や技術を創造したりする活動を取り入れよう

ア　生徒が、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定するための活動を工夫する。

イ　課題の解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価・改善といった一連の学習活動の中で、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりする活動を重視する。



(4)　評価を次の学習活動につなげよう

「内容のまとまりごとの評価規準」を作成し、生徒の学習成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図ったり、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かったりすることができるようにする。

個別最適な学びを実現するための授業例

技術分野（中２　双方向性のあるコンテンツのプログラミングによって生活をよりよくしよう）

「問い合わせチャットシステム」や「翻訳アプリ」などの例を参考にしながら、自分や身近な人の生活をよりよくするためのプログラムについて、構想させました。「学校でよくある質問に自動で答えるチャットシステムを作りたい」「外国語の掲示物を翻訳するアプリがあったら便利だな」といった発想から、プログラムの構想を始め、子供が自分のアイデアをもとに、夢中になってコンテンツ作りに取り組む姿が見られました。「使いやすくするには、どんな処理の流れがよいか」と教師が問いかけることで、情報処理の手順やデバッグへの意識が高まり、安全で適切なプログラムを目指す姿が見られました。

完成したプログラムは友達同士で紹介し合って、使ってもらい、うまくいかなかった箇所と原因、対策をまとめました。紹介し合うことを通じて、お互いのよさを認めたり、新たな気付きを得たりする機会にもつながりました。

ここがポイント！

フィードバックを基に、自分のプログラムの不具合を分析し、改善策を考えることで、個々の課題に応じた学習が促進されます。

家庭分野（中２　生活を豊かにするための布を用いた製作～便利なフェルトケースを作ろう～）

フェルトケースの製作を通して、作品に適した材料や縫い方を理解し、用具の安全な扱い方を身に付けることを目指しました。ポケット口の始末やボタンの種類・個数などを自分で選ぶことで、作品へのこだわりや創造性が表れ、子供たちは意欲的に取り組んでいました。

まつり縫いの指導では、教師が手本を示したり、手順書やデジタル教科書の動画等を用意したりして、子供が学び方を選択できるようにしました。さらに、ペアやグループを作ることで、教え合いながら学習する姿も見られました。製作後は振り返りカードを記入し、自分の工夫を振り返り、他者の作品から新たな気付きやよさに気付く姿も見られました。

ここがポイント！

多様な学び方の提供と協働的な関わりを通じて、より深い理解と主体的な学びを促すことができま